

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ケニア共和国 イララマタク地域開発プログラム(KEN-182381)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

地域が主体となって弱い立場に置かれた人々を支援し始めています

イララマタク地域開発プログラム(以下、ADP)では、地域諮問委員会(地域内の様々なグループをまとめる機関)、保健従事者、HIV/エイズとともに生きる人々の自助グループなど、さまざまな住民組織の能力を高めるために活動しています。ワールド・ビジョンが去った後も、住民自身が自らの力で地域開発を担っていくことができるようになることを期待しているからです。今年度は親を失った子どもたち40人以上に対して、地域の女性グループや教会が授業料と制服を補助しました。また、地域諮問委員会は8人の子どもたちを児童労働や女性器切除の危険から救い出し、彼らが学校に戻れるようにサポートしました。



教会のメンバーは皆でお金を出し合い、親を亡くした16人の子どもたちの授業料や制服を支援しています



夫を亡くした女性たちのグループにより学費の補助を受けている地域の子どもたち

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとくに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

皆さまのイララマタク地域に対するご支援に厚く感謝を申し上げます。皆さまのご支援は、この地域や周辺の人々の生活を大きく変えています。地域住民だけでなくADPと協働する組織(学校、医療機関、地方政府など)の能力が高められ、その結果、多くの子どもたちが、健康な生活を送ることができています。地域内でもさまざまな住民組織が結成、強化され、持続可能な発展へと動き出すことが可能となりました。このような活動により、イララマタク地域やその周辺の人々の生活にこれからも変革がもたらされるだろうと期待しています。

エバンス・オスンバ(イララマタクADPマネージャー)



教育プロジェクト

教育プロジェクトでは、地域住民の教育に対する意識を高め、教師をはじめ教育関係者の積極的な働きを促し、学校教育の量と質を改善しようと励んでいます。地域と協力して新たに教室が建設され、1クラスあたりの生徒数が減り、生徒にとってより良い学習環境が整えられました。多くの生徒たちが通学意欲を増し、授業に集中できるようになっています。教育省、学校管理運営委員会、また地域の有識者との協力による啓発活動の努力の結果、地域住民も教育をより重要視するようになってきています。その結果、過去3年間で、地域内の小学校の就学生徒数は1,450人(2011年)、2,083人(2012年)、2,977人(2013年)と上昇を続け、より多くの子ども

もたちが学校に通えるようになってきています。就学生徒数は確実に増えていますが、同時に様々な事情で中途退学せざるを得ない生徒も少なくありません。ADPはこれに対して教育省と協力して、地域内の各学校で、生徒たちが継続して教育を受けよう励ます集会を開催してきました。集会の中では、子どもたちがより良い将来を切り拓くために教育がどれだけ大切であるか、また子どもたちの勉学を阻む伝統的な習慣(早婚、女性器切除、児童労働など)について話されました。その成果もあり、今年は3人の女子生徒が中等教育を修了することができました。

完成した新校舎(内部)



古い校舎(内部)

支援地域内で使われていた古い校舎(外観)



完成した新校舎(外観)

保健衛生プロジェクト

「世界手洗いの日」(毎年10月15日)に合わせて、イラマタク地域内の300人の生徒が手洗いの習慣を身に付けるための啓発活動に参加しました。また、イラマタク地域内の20の村では、学校や保健所にトイレが建設され、衛生環境の改善が図られています。地域内でのトイレの使用率はまだまだ低いため、特に子どもたちは汚水などを媒介とする予防可能な病気に苦しめられています。衛生環境改善のためには、ADPをはじめ地域全体がより一層力を入れて取り組んでいかなければなりません。

保健省、地域の住民組織との協力によって巡回診療が実施され、イラマタク地域のような農村部にもワクチン接種、栄養補助、医師による診療といったサービスが提供されました。このほかに、イラマタク地域内の村にある診療所が、公共保健衛生省に公式登録されました。これにより保健省から薬品などの提供を受け、403世帯、約2,540人の住民(うち2歳以下の乳幼児813人)に対して、医療サービスを提供できるようになりました。



地域内の診療所で壊れたままになっていたトイレ



同じ診療所に新しく建設されたトイレ



村の診療所で唯一の医師として勤務するアモスさん。約10キロ離れた場所から歩いてやってきた患者を診察しています

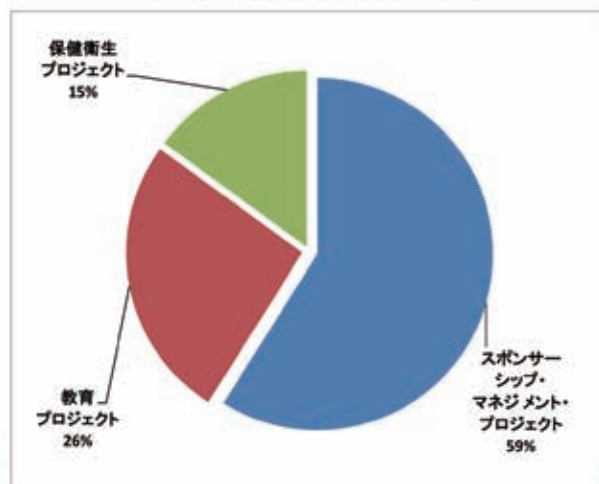
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

KEN - 182381 (単位: 円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	43,046,638
当期支援額	43,046,638
前期繰越金	118,929
プログラム支援額合計	43,165,567
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	25,505,035
教育プロジェクト	11,272,622
保健衛生プロジェクト	6,481,041
プログラム支出額合計	43,258,698
次期繰越額	-93,131

支援分野別内訳(KEN - 182381)



イラマタクADPIは大変奥まった地域で実施されており、道路状態も悪いため交通費や資材調達費等が他地域に比べて高額です。これら事業管理費はスポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトに計上しております。



【地域内に立ちはだかる障がい】

ADPの活動を進めていくにあたり、道路や交通手段が十分整備されていないことが未だに大きな障がいとして立ちはだかっています。地域の中には、電話やインターネットといった通信手段がないため、必要なときに必要な情報を伝達することができず、活動を実施することが困難な場所も多くあります。移動するにも非常に時間がかかります。ADPは、郡の役所において予算や活動計画の策定が行われるときには、インフラの整備を強く主張しています。

またある家族は、乾期には家畜のための牧草と水を求めて、ほかの地域へ移住してしまった家族もありました。このため、居場所が分からなくなり、チャイルドの状況調査が遅れがちとなったこともあります。

子どもの権利を侵害する習慣（例えば、女子児童に対する早婚や結婚の強制、女性器切除、男子児童が村の戦士になり学校を退学しなければならないこと、子どもを労働力として利用すること、等）が未だに地域で許容されていることも大きな課題の一つです。



女性器切除および早婚を強要されていた少女（一番左）とその家族。ADPスタッフがその状況を知って介入し、今では学校に寄宿して勉強を続けられるようになりました



【早婚から救われて】

2009年に、リリアンさんが早婚を強要されているという情報が報告され、郡の役所と協力し、彼女を早婚から救うことができました。数カ月後には希望通り高校に入学し、昨年には卒業試験を受けることができました。この例は、村の女子教育についての認識を変え、結婚を理由に女子生徒が退学するケースが減少してい



早婚を強要されていた当時の状況について語ってくれたリリアンさん

ます。数年前は8年間の初等教育を終えられた女子生徒はたった1人でしたが、今では20人以上になっています。リリアンさんはその後、高校を修了し、マサイ・マラ大学への入学願書を提出しています。「早婚を強制される恐れもなくなり、今では自信をもって自分の意見を述べることができます。私を助け、高校での教育を受けられるように支援してください本当にありがとうございます。将来、この地域に戻り、地域の女子生徒がそれぞれの可能性を見出せるような働きができるようになりたいです」

※ケニアの教育制度は、8年間の初等教育（小学校）、4年間の中等教育（高校）、4年間の高等教育（大学）となっています。



【スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト】

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

イラマタクADPでは、「子ども議会」や「子どもクラブ」といった活動を定期的に実施し、子どもたち自身が地域社会

をどのように捉え、何が課題であり、それに対してどのような行動をとっていけるかを話し合ったり、寸劇を通して表現したりする場を設けています。

ほかにも、今年度は578人の子どもたちについて、出生証明書を取得するための手続きをサポートしました。イ



地域内の小学校に通う子どもたち。続けて教育を受け、地域の未来を支えてほしいと願います

ラマタク地域内では、親が届け出をしていなかったために出生証明書を持たない子どもが多くいますが、この重要文書がないと初等教育から中等教育、高等教育へと進学することができません。578人の子どものうち81人が小学校8年生でしたが、出生証明書を取得し、無事に初等教育修了試験を受けることができました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ケニア共和国 キアムボゴコ地域開発プログラム(KEN-185647)



2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



ADPによる給水システムの整備によりきれいな水がひかれ、子どもたちに笑顔を与えています



「水があるおかげで花も育てることが出来ます。前よりも学校がきれいな場所になったと思います」と語ってくれたロイセちゃん

私の学校にも水がやってきました!

キアムボゴコ地域開発プログラム(以下、ADP)では、より多くの住民が安全な水を手に入れることができるよう、水・保健衛生改善分野に力を入れて活動しています。地域のほとんどの学校に水道はなく、子どもたちはその日学校で使う分の水を毎朝自分で持ってきます。家にも水道はなく、早朝から遠くの川や泉、井戸まで水汲みに行くため、多くの時間と労力を使います。そのため、今年度、ADPは地域内のいくつかの小学校に貯水タンクを支援しました。その内の一つの小学校に通うロイセちゃん(8年生)は学校に水があることの喜びを笑顔で語ってくれました。「貯水タンクのおかげで、もう家から水を持ってこなくてよくなったので、水汲みで遅刻をすることもなくなったわ。それに、学校できれいな水を使って手を洗えるから、前よりも病気で学校を休むお友だちも減ったの。本当に嬉しいです」

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとくに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

キアムボゴコ地域へのご支援に、心から感謝申し上げます。皆さまの温かいご支援により、地域子どもたちや家族が豊かないのちを生きることができることを目指した活動を行うことができています。私自身もかつてはワールド・ビジョンから支援を受けるチャイルドでしたので、皆さまのご支援がどれだけ地域の人々の生活を変えるのか身に染みて理解しています。その献身的なご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ロビンソン・コトル(キアムボゴコADPマネージャー)

HIV/エイズ対策プロジェクト

地域内にはHIV/エイズで親を亡くし、子どもたちだけで暮らしている世帯や、親戚の家に身を寄せている子どもたちがいます。そのような世帯に対して、養蜂用の巣箱50個と15匹のヤギを支援しました。蜂蜜やヤギの乳を販売することで世帯収入を向上し、少しでも彼らの生活の支えになってほしいと願っています。また、地域内の45人の宗教指導者(キリスト教やイスラム教)に対して、HIV/エイズ予防や適切な対処に関する研修を行いました。宗教指導者は地域住民に対して大きな影響力を持つ存在です。彼らの口からHIV/エイズに関する正しい情報を発信してもらい、人々の行動を変えていくことが狙いです。

HIV/エイズのほか、今年度は広く保健分野に関わる活動として、保健省と協力し、3,341人の子どもたちに対して、はしかの予防接種とビタミンA剤の補助を行いました。また、地域内の2つの保健センターの職員に対して、研修を行い、保健センターの職員や利用者である住民の目から見て、適切な医療サービスを提供するために保健センター内で何が欠けているかを調べ、本来そのニーズを満たすべき存在である行政機関に訴えかける方法について学びました。ニーズを訴える際には、何が不足しており、いくら予算で、どのようなプロジェクトをしてほしいのかをしっかりと申請書にまとめて行政に提出します。今まではその申請書の準備の仕方も分からず、何もできずにただいつか支援が届くことを待つだけでしたが、研修を通して行政ではなく住民の目線でニーズを把握し、積極的に住民側から働きかけていくこ

とを学ぶことができました。研修の後、地域の保健センターの一つでは、実際に地方行政に対して産科病棟の修繕ならびに増設のための予算を申請し、必要な支援を取り付けることに成功しました。この保健センターは、周辺地域一帯で最も分娩数が多かった病院として、表彰されるまでになっています。ワールド・ビジョンは地域に一時的に留まる存在でしかありません。このようにして、地域住民が地方行政との協力により、地域の課題解決に取り組むことを経験することは、非常に大きな成果と言えます。



養蜂用の巣箱の提供を受けた子どもたち



保健センターで働くサイモンさん。分娩数が最も多かった病院として表彰された際にもらったトロフィーを見せてくれました



教育分野での課題

キアムボゴコ地域には教室や教員、教材などが揃っていないために十分な教育を受けることのできない子どもたちがまだ多くいます。ADPの予算や人員も限られており、地域に山積する課題すべてに取り組むことはできないため、現在は住民から最も優先すべき課題としてあげられた保健分野、水・衛生分野に注力している状況です。給水システムを整えることで、子どもたちの健康状態が改善され、水汲みにかかる時間が減り、学校に通える子どもたちが増えていますが、学校に行けたとしても、すし詰め状態の教室といった問題は残ります。ケニアでは1クラスあたり最大45人の生徒数が望ましいという基準が設けられていますが、特に農村部の学校ではその基準は無きに等しい状況です。すでに多くのご支援をスポンサーの皆さまにはいただいておりますが、今後もこの支援の輪に1人でも多くの方が加わり、教育分野での課題にも取り組むことができるようになればと願っています。



地域内の小学校の様子。96人が一緒に授業を受け、本来は3人で使うはずの机とイスを6、7人で共用しています



この小学校は、地域住民が自分たちで作上げた学校です。遠距離を毎日徒歩で通う子どもたちの姿に胸を痛め、行政の取り組みを待つのではなく、住民自身がお金と労力を出し合い教室を作りました。しかし、生徒数に対して教室が不足しているため、3年生までしか通えません。ここで働く教師は3人(写真は校長先生)ですが、職員室はなく、木の下で会議をしたり仕事をしています。学校の周りには家々が点在するだけで商店や食堂などもなく、保護者の寄付による薄給で働いている教師もいるため、毎日昼食も食べないなど多くの犠牲を払いながら働いています



ADPマネージャー(写真奥)の話に耳を傾ける子どもたち。きらきらと輝く瞳からは学校が大好きな様子が伺えます

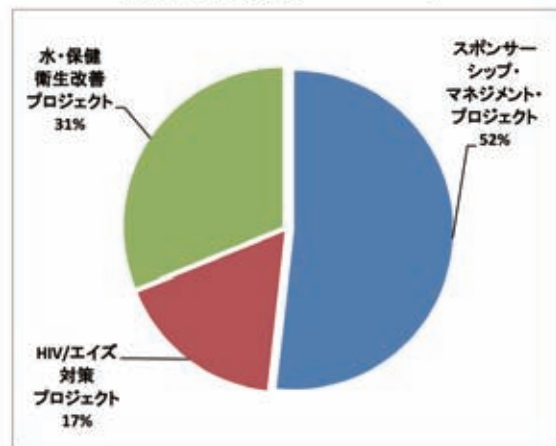
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

KEN-185647 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	29,463,707
当期支援額	29,463,707
前期繰越金	210,847
プログラム支援額合計	29,674,554
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	15,673,585
HIV/エイズ対策プロジェクト	5,153,730
水・衛生改善プロジェクト	9,449,446
プログラム支出額合計	30,276,761
次期繰越額	-602,207

支援分野別内訳(KEN-185647)



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトには、子どもの権利保護や能力向上のための活動、また学校運営委員会や地元の市民団体を通じてチャイルドの成長を定期的にモニタリングするといった活動が含まれます。



水・保健衛生改善プロジェクト

より多くの人々が安全な水へ、より近距離でアクセスできるように、今年度は貯水タンクの建設と、山の中にある水源から貯水タンクへのパイプラインの整備を行いました。これにより3,350人（その内1,572人が子ども）が徒歩30分以内で飲み水を確保できるようになりました。これらの給水システムの整備が完了する前には、12キロも離れたところから山を登り、水源まで水を汲みにくる人々もたくさんいました。水汲みのために学校を休まざるを得ない子がいたり、女の子の場合は山の中の人気もないところで身に危険がおよぶことすらありました。また新たに地域に水管理委員会が設置されました。そして、ワールド・ビジョンから組合の運営方法（委員会の運営全般や会計など）について研修を受け、現在では水を汲みに来た利用者は少額の料金を支払い、その費用は給水システムのメンテナンス費用に充てています。メンテナンスは2カ月に1度必ず行われ、基本的な修繕はすべて水管理委員会のメンバーで行っています。

このように住民たちのお金を回し、作業も担うという持続可能な形が整ってきています。

そのほか、地域内の2つの就学前教育センターに通気改良型トイレを建設しました。地域内ではまだトイレの普及率は低く、人々の衛生管理に対する意識や居住地域の衛生状態は良いとは言えません。今後も給水設備の整備と並行してトイレの建設や衛生教育にも力を入れていきます。



貯水タンク(右)と水の販売所(左)。住民は10-30リットルのプラスチック容器を持参し、容量に応じて料金を払っています



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていきような啓発活動も行っています。



地域に住むチャイルド(一番左)とその家族とADPスタッフ(右から2人目)

キアムボゴコ地域では、家庭が貧しいがゆえに、子どもたちが近隣の町に出ていき花農園で働いたり、家で家畜の世話や農作業に従事したりというケースが見られます。その結果、学校に行くことができず、「教育を受ける権利」は守られていません。また、子どもたちに対する家庭内の身体的/精神的暴力の事例もADPには報告されています。そのような状況を少しでも改善するために、啓発活動の強化と子どもの権利が守られるような仕組みづくりを、今後も実施していきたいと考えています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

ケニア共和国 オレントン地域開発プログラム(KEN-177602)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

村で初めての就学前教育センターができました

今年度、オレントン地域開発プログラム(以下、ADP)では、住民と協力し、地域内の村で初めて就学前教育センターを建設しました。村から一番近い就学前教育センターと小学校までは7キロ離れており、3-5歳の子どもたちにとってその距離を歩いて通うのは不可能でした。村長はこの状況を変えるため、就学前教育センター建設のために自らの土地を提供し、また、親たちも立ち上がり、大学で学んだ教師を一人雇い、お金を出し合って毎月の給料を支払っています。併設されているトイレも、村民が自ら費用と労力を提供し建設しました。現在は32人の子どもたちがともに学び、遊び、楽しく過ごしています。スポンサーの皆さまからの支えは、このようにケニアの小さな農村で確実に実を結んでいます。



建設された就学前教育センターの校舎とトイレ(右奥)。周辺は野生の象も多く生息し、人が襲われることもある場所です



先生の掛け声に合わせて、歌を歌う子どもたち



大学で就学前教育を学んだ教師(左)と敷地を提供した村長(右)

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとくに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

オレントン地域から心を込めてごあいさつ申し上げます。皆さまからの継続的なご支援と祈りに支えられていることを本当に感謝しています。私たちが、教育や保健分野で幅広く活動を行うことができるのは、皆さまからのご支援のおかげです。

このごあいさつを書いている今、オレントン地域の子どもたちは「子ども議会」の新しいリーダーたちを選出しています。選出された子どもたちは、彼らの視点から子どもの権利が地域の中でどのように守られ、また脅かされているのかを確認し、ほかの子どもたちの問題意識を高め、地域の大人たちに必要な提言を行っていきます。

日本の皆さまもオレントンにいる私たちも、子どもたちが豊かないのちを生きられるように、という願いで1つであることをうれしく思います。改めて、オレントン地域の子どもたちへの皆さまからの力強いご支援に感謝申し上げます。

ベルナデ・ロロジュ (オレントンADPマネージャー)



教育プロジェクト

地域内では十分な食事も摂れない中、小学校に通うために日々長い道のりを歩かざるを得ない子どもが多数います。毎朝毎晩通学に時間がかかるだけでなく、特に思春期の女子の場合は通学中に身に危険がおよぶこともあります。また、電灯も十分でない家に戻れば、夜間に勉強することは大変難しく、家事の手伝いに追われることもしばしばです。そのため、今年度、地域内の小学校一校に女子生徒用の寮を整備しました。二段ベッドを置き、学校の周りには安全対策のために金網を張りめぐらしました。安全な学校で、友だちと一緒に安心して勉強に集中できることは、彼女たちにとっては何よりも幸せなことです。

また、教育省と協力して、地域内の5校について、学校運営委員会への研修を行いました。お金や教材の管理の仕方、親や生徒への説明責任の果たし方、教育の質を向上するためのカリキュラムの見直し、などについて研修が実施されました。



小学校に整備された女子生徒用の寮

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

さらに、今年度は778人の子どもたちについて、出生証明書を取得するための手続きをサポートしました。オレントン地域内では、親が届け出をしていなかったため出生証明書を持たない子どもが少なくありませんが、この重要文書がないと進学を阻まれたり、公共サービスを受けられなかったりと不都合が生じます。

ワールド・ビジョンは、地域内でも特に弱い立場に置かれた子どもたちを重視し、活動を行っています。そのため、障がいを抱えた子どもや親を失った子ども等について、ADPが学費や学用品を支援する場合があります。ンコブル君(9歳)は、小児麻痺のために膝から下が自由に動かせず、小学校を中途退学せざるを得ませんでした。ADPは活動を進める中で彼の状況を知り、車イスを支援することにしました。



車イスの支援を受け、以前よりも動きやすくなったと喜ぶンコブル君

FGM (女性器切除) に「ノー」と言うために

アフリカや中東をはじめとする国々では、女の子の成人への通過儀礼として女性（その多くが15歳未満の女子）の性器の一部を切除する慣習（FGM：女性器切除）が根強く残っています。この慣習は非常に強い伝統文化に根差しており、それが有害であると分かっていたとしても、自分の娘にFGMを受けさせてしまう親は多くいます。

オレントン地域はマサイ族が多く、FGMも未だに広く行われています。今年度は地域内のナロク郡において、FGMが与える子どもたちの心身への悪影響について、また、ライフ・スキル[※]を身に着けることの重要性に関する研修を開催しました。322人の女子生徒が研修を受け、最後にFGMに代わる通過儀礼として、郡の指導者たちから祝福を受けました。

強い伝統文化により支えられているFGMをなくすためには、地域内で発言力を持つ人々の意識を変え、協力を仰ぐことが必要不可欠です。ADPは村々の指導者である長老に対してもFGMの有害さを訴える啓発集会を実施しました。集会の中では、2011年にケニアで法制化された「女性器切除禁止法」に関して説明がなされました。今後長老たちが中心となって、集会で聞いたことをそれぞれの村で人々に伝えていくことが期待されます。

※ライフ・スキル

子どもたちが、自分で考え、意思決定し、それを伝えることができるようになることを目指す学習。性教育、子どもの人権、女性の人権、意思決定（HIV/エイズの被害者にならないよう、男性が決定権を持つ伝統的な社会で、自分の意思を「ノー」と言って伝えることの大切さ等）について学ぶ



郡の指導者から研修の修了証書を受け取る女の子



村々の長老(指導者)を招いての研修の様子

会計報告

収支計算書

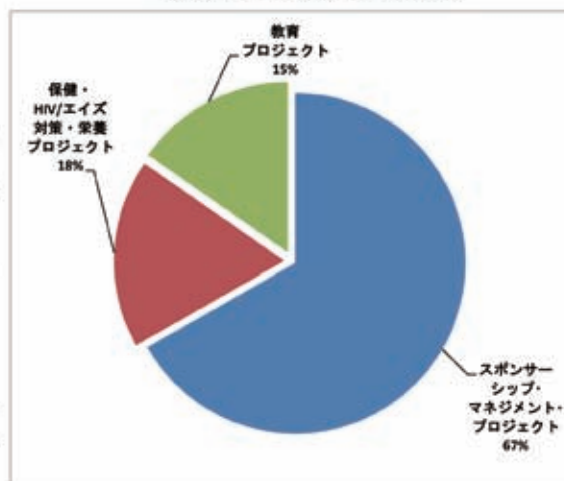
自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

KEN-177602 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	42,982,964
当期支援額	42,982,964
前期繰越金	82,661
プログラム支援額合計	43,065,625

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	29,290,120
保健・HIV/エイズ対策・栄養プロジェクト	7,830,991
教育プロジェクト	6,719,261

プログラム支出額合計	43,840,372
次期繰越額	-774,747

支援分野別内訳(KEN-177602)



オレントンADPは大変奥まった場所にあり、広大な地域を対象としています。加えて、近年ケニアでは資材や燃料等の価格が高騰しているため、事業管理費を含むスポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトの割合が大きくなっています。

保健・HIV/エイズ対策・栄養プロジェクト

医療施設の整っていないオレントン地域では、地域保健ボランティアの存在が極めて重要です。彼らは地域内の各世帯を回り、健康管理に関する知識を普及するだけでなく、特に5歳以下の子どもたちの体調不良を早期に発見し、地域の保健センターへ紹介する手助けも行っています。ADPは地域保健ボランティアの訓練を実施し、MUACテープ（子どもの上腕部の周囲を計測し、栄養状態を把握するための器具）の使用や浮腫の有無の確認により、子どもたちの栄養状態を把握する方法を教えました。また、栄養不良を抱える子どもたちを一人でも多く減らすため、ケニア農業省と協働で、家庭菜園や栄養バランスのとれた食事を摂ることの重要性を教える研修を実施し、地域内の213人が研修に参加しました。



地域保健ボランティアとして働くピュリティさん(左)。彼女は35世帯を担当し、積極的に各家庭を訪問しています



子どもの上腕部の周囲を測定する地域保健ボランティア

ケニアでは公衆衛生保健省の主導の下、“Malezi Bora”（スワヒリ語で「良く育てる」）という名の全国規模の保健啓発キャンペーンが年に2回実施されます。このキャンペーンにワールド・ビジョンは協力し、オレントン地域の住民に対し、ビタミンA投与、駆虫、様々な疾病やケガの治療、HIV検査、マラリア予防のための蚊帳の配布などを行いました。オレントン地域はへき地で、医療サービスを十分に受けることができない人々がほとんどです。このキャンペーンにより、多くの住民の健康が守られました。



“Malezi Bora”のキャンペーン中に予防接種を受ける子ども

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。